

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：都市群モデル	
日付：11月1日（土曜日）曜日、セッション時間：13:15～14:45	
司会者名（所属）：小池淳司（鳥取大学）[福山（鳥大）の代役]	
討 議 内 容	セッション全体：都市経済学で発展した都市群モデルを応用して，人口減少社会の人口分布 交通費用低下と人口分布パターン 交通費用低下と産業立地パターンの分析した発表がなされた。モデルは，マーシャル型の集積経済を考慮したもの，New Economic Geography を応用したものである。議論の中心は，土木計画として，このような都市経済理論モデルを応用していく場合に，以下に現実の現象を表現しているかを検証する必要があること。その検証のためには，定型化されている事実を確認する必要があることなどに関する議論がなされた。
	（37）林晃平（東京大学）： 総人口変化に関して比較静学分析を行い，人口減少化でより都市部への人口集積が起こる場合が示唆された論文である。一方で，人口減少と人口増加で挙動が同じモデルを用いていることに関して議論がなされた。
	（38）菅澤晶子（東北大学）： 消費者の異質性を考えることで，交通サービス向上による人口分布パターンに違いが見られたという論文である。空間立地のパターンに周期性が見られることに関して，モデルの内容理解ならびに現象の特徴に関する議論がなされた。
	（39）高山雄貴（東北大学）： 消費者の異質性と多産業を組み合わせ，交通サービス向上により人口パターンおよび産業構造にどのような影響をあたえるのかを分析した論文である。特に，産業の立地に関して，定型化された事実がどのようなものかに関する議論がなされた。